

H17年度第3回山口県県民活動審議会会議事録

日時 平成18年3月22日(水) 14:00~16:00
場所 防長青年館中ホール

(会長)

今日が2年間の任期の中で最後の審議会になります。事務局から説明がありました報告事項と審議事項の2つあります。2時から4時までを予定しておりますので、御協力を頂きながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

4つあります報告事項の1番目のNPO法施行事務の県民局への移管について事務局から説明をお願いします。

[事務局]
説明省略

[会長]

ありがとうございました。

今御説明いただいたNPO法施行事務の県民局への移管に関しまして、何か御質問がありましたら、受け付けたいと思います。

[委員]

1つは、移管される業務内容の1番下のところで、事業報告書とあるのですが、決算報告は、やはり県民生活課のほうですか。それから、受理及び閲覧ということですが、閲覧は管内のNPO法人しか見ることができないのかどうか、全体を見ようと思えば、やはり県民生活課のほうなのかどうか、お聞きしたいのですが。

[事務局]

事業報告書等と書いてありますが、決算書もすべて、この等の中に含まれています。つまり、すべてまとめて県民局に提出して頂くということになります。それから、閲覧・縦覧ですけれども、これについては県民局で閲覧等できるのは、県民局の管内のNPO法人さんのみとなります。すべてのものを閲覧したいという場合は、御足労ですが、今までどおり県民生活課の方へお越し頂く必要があるということになります。本来ですとすべて閲覧できるというのですが、ちょっと一気に県民局の対応がいきませんので、申しわけありませんが、そういった形で、スタートさせて頂きたいと思っております。

[委員]

県民局の受理される担当の方のスキルアップの点なんですが、多少は相談業務も可能なのか、それとも受理するだけで、最終的な判断は県民生活課でおやりになるのでしょうか。そこらのやりとり、時間のロスも含めて、これまでどおりの可能性があるのかどうか、お聞きしたいのですが。

[事務局]

県民局で受け付けて、県民生活課で処理するというのではなくて、県民局で完結型でやるということを進めております。ということで、スキルアップですね。かなり頑張っているとはいけない訳ですが、先般も県民局の担当者に集まってもらって研修をしたところですし、年度が変わっても、そういった研修を直ちに進めていく、その外いろんな機会を捉えながら能力アップをしていきたいと、御迷惑をかけないように、便利にだけなっ

たと言われるように頑張ってきたと思っています。そうした中で、これまでどおり一気にサービスができるかという、どうしてもなかなかロケットスタートというわけにはいかない部分もありますので、県民活動支援センターさんの御協力を頂きながら、例えばお出かけ相談会を県民局で実施するとかといったような工夫をしながら、質の低下をきたさないように、むしろ内容的にも高まってきたよといわれるように頑張っていきたいと思っています。

[委員]

かなりNPO法人に対して厳しい面があるものですから、チェック機能も含めて、出先がどのくらい対応してもらえるかというのもあるんですね。いかがわしい団体も含めてチェックもありましょうし、NPO法人そのものがおかしいんじゃないかという一般の方の厳しい目も生まれてきているので、そういったことに十分対応してもらえるようなスキルアップは是非お願いしたいなと思います。

[委員]

現在、県民活動支援センターを受託している県民ネットとして今考えていることをお伝えしたいと思います。先日来、県の方と協議致しまして、お出かけ相談会と一緒にセンターが出かけていき、各地域のセンターとも連携を取りながらいろいろな情報を収集して、NPO法人の設立に関してはサポートしていく体制を取ろうというふうにしています。

実際に、地域のことは、地域の方々がよくご存じなので、各地域のセンターや県民活動支援センターも今までどおりNPOの支援はさせていただきますので、より地域に密着した形でのNPO法人の設立、また団体側から言うと、わざわざ県庁にまで出向かなくても済むし、もし協働を考えた場合も状況が分かりやすい体制になるのではないかということです。

[会長]

ありがとうございました。他にはないですか。なければ次の2番の報告事項に移りたいと思います。

やまぐち県民活動支援センターの移転について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

説明省略

[会長]

ありがとうございました。

今説明がありましたセンターの移転について、何か御質問がありましたら、お受けしたいと思います。

なければ、報告事項の3番目に移りたいと思います。やまぐち県民活動支援センター指定管理者の指定について、御説明をお願いします。

[事務局]

説明省略

[会長]

ありがとうございました。

今ご説明がありましたセンター指定管理者の指定について、何か御質問がありましたら、どうぞお願いいたします。

[委員]

指定管理者制度については、とても期待しながらこういう結果になるだろうと思っていたのですが、別紙の評価点のところ、県民ネット21さんが917点で、その下の県民活動団体Aが874点であり大差がないよう感じましたが、なぜなのかなと思ったのと、安定性と経験、実績でいうと県民ネット21さんは、ずっと初めからやっているわけだから実績と経験はあるわけで、それなのにAの団体がこれだけ僅差に迫ったというのは、Aの団体はどういう強みなり、何かがあったのだろうか気になったのですが、そこは聞いてもいいのでしょうか。

[事務局]

資料の3番のところでもまとめているのですが、県民活動団体Aにつきましては、非常に意欲的であるということが1点と、県民活動調査研究所というものを設立して、県民活動の調査をしながら次の展開を図っていこうという新しい提案であること、それから、管理部門での強みも若干ございまして、そういったものを総合的に判断した結果、県民ネット21さんとA団体がこういう形で競って僅差での結果になったわけです。いずれにいたしましても、それぞれの項目毎の評価については、5人の選定委員さんのそれぞれの評価点の合計となっております、そういった所を委員の皆様方が評価されて、あまり点差が開かなかったというふうに受け止めております。

[委員]

ありがとうございました。僅差に迫るような団体が他にもあったんだということがわかったということで、今回、指定管理者制度になったことは、とても良かったと思います。

[会長]

ありがとうございました。他にはないですか。なければ次の報告事項の4番目に移りたいと思います。

平成18年度県民活動関連事業について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

県事業について説明（省略）

[オブザーバー]

財団法人やまぐち県民活動きらめき財団の事業について説明（省略）

[会長]

ありがとうございました。それでは平成18年度県民活動関連事業について、御質問があれば受け付けたいと思います。いかがでしょうか。

[委員]

質問というよりお願いですが、財団事業の4のコーディネートシステム構築事業で、インターネットによるネットワークシステムを構築し、管理運営を行うということですが、セキュリティのご説明もありましたが、今年、ウィニーという非常に社会問題になっていることもありますので、セキュリティについては慎重に検討して頂きたいと思います。

[オブザーバー]

ありがとうございます。十分対応したいと思います。

[委員]

資料の 14 ページにあるアクティブ 21 について、具体的にどういうことが行われているか教えて頂けますでしょうか。

[事務局]

アクティブ 21 は、21 世紀という意味を込めて言っており、全庁的な取組ですが、例えば、県民生活課の所管でありましたら、消費生活の関係で条例の改正を 17 年度の 1 つの項目としてあげさせて頂いております。

具体的には、悪質商法に対応し、条例で厳しく規制したり、消費者の皆さんが被害に遭わないように、普及啓発や情報提供をするなど県の責務を条例の中で定めたりしていますが、特に予算をいくらか計上するものではなく、今ある県の能力、システム、人材を活用して行政を進めていくものをアクティブ 21 として、とりまとめているものです。

18 年度はその他に交通安全の無事故・無違反コンテストの実施や、青少年健全育成条例の一部改正の検討を行っている状況です。

その他、もったいない活動サポートとかいろいろな取組が環境生活部の中にもあります。

[委員]

とりあえず、例えば県民活動団体との連携・協働という部分での具体的な取組というのは、まだそれほどは無いということですね。

[事務局]

18 年度初めて、ラウンドテーブルの設置ということを考えているわけで、これからの取組ということになります。

[委員]

質問ではないのですが、やまぐち県民活動きらめき財団の事業報告の中に、ボランティアフェスティバル開催事業があり、今年は文化ボランティアという新しい名前を付けて、神津さんが講師でいらっしゃるとお聞きしました。今回、山口県では国民文化祭も絡んで、たぶん文化ボランティアを神津さんもやっておられるので、呼ばれたと思います。

実はこの 3 月 10、11 日に埼玉県で第 1 回の文化ボランティア全国フォーラムがありまして、私も行ってきたのですが、博物館、美術館、図書館または、生活に密着した伝統的文化を通して、人づくりとか、ネットワークづくり又は、行政との協働等様々な切り口でこの文化ボランティアが新たな展開を見せていると思いました。山口県も様々な文化施設がございますし、また、国民文化祭を通して、新たな人づくりができると思いますので、とても期待をしております。

また、全国フォーラムでは文化庁長官の河合隼雄さんの講演もありました。全国から集まって、文化ボランティアという新しい風が吹くのだなという風に思いました。

[会長]

ご紹介頂いて、ありがとうございました。

ご質問がなければ次に移らせて頂きます。以上で議題の報告事項が終わりまして、次に審議事項に移りたいと思います。審議事項の 1 番目ですが、平成 18 年度県民活動促進事業について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

説明省略

[会長]

ありがとうございました。それでは、これは審議事項ですので、御質問、それから御意見がありましたら承りたいと思います。いかがでしょうか。

[委員]

昨年、県民活動ボランティアフェスティバルに参加させて頂きました。すばらしい活動報告がなされ、盛りだくさんで良かったのですが、あまり人がいらしてなかったんですね。というのは他の団体も分科会をやっていて、埋もれてしまったのではと思います。

そこで、折角いい発表を聞かせてもらうのに、少し上手にPRするとかの方法はなかったのかなと思いました。それと中の内容が、ちょっと盛りだくさんだったかなと思います。発表する団体さんが多かったのもう少し時間があっても良かったと思います。

それからパワーアップ賞は、知事表彰ですから、やはり県でやられるのですよね。このような何か目玉があると、それを見たさに人も集まるのではないかと思います。そうすると、この時のフォーラムでも、もっと盛り上がる部分もあるかもしれないと思いました。

[事務局]

十分に参考にさせて頂きまして、また、具体的には実行委員会等で、そうした御意見を反映させて頂きたいと考えております。

[委員]

お尋ねなんですけど、実施手法で公募による協働型委託とありますが、これは、企画運営する県民活動団体は、たくさんの団体ですか、それとも1団体ですか。

[事務局]

公募は、共同体を編成して応募することも可能としておりますが、基本的には、ひとつの責任ある県民活動団体に委託をしたいと思います。その上で、その県民活動団体を中心に実行委員会等組んで頂きまして、事業効果を県全域に波及させて頂きたいと思います。

[会長]

ありがとうございます。次に審議事項2の県民活動の現状についてです。事務局から説明をお願いします。

[事務局]

説明省略

[会長]

ありがとうございました。それでは、ただいまの件に関して、御意見、御質問がありましたら受け付けたいと思います。県民活動の現状についていかがでしょうか。

[委員]

こうやってデータを改めて見ると、変化も楽しみですし流れというのがわかって、非常に興味深い所なんですけど、実は、先だって、国土交通省と総務省の関係で、ゲストスピーチということで参加させて頂いたのですが、両方ともどういう訳か人口減少時代におけるまちづくりや地域づくりがらみの委員会での勉強会で、どちらも審議官や局長が出られて議論する場だったのですが、レポートしていくのに、都市部と中山間地域の現状の違いというんですかね。たぶん、山口県でも沿岸部と中山間地域とのギャップのようなもの、例えば県内における二重構造のような雰囲気があるのではないかと思います。先に実施された国勢調査の結果が出ていますが、その中で公共事業主体で動いていた中山間地域

というのが、人口減少がちょっとずつ出ている、都道府県においても顕著に出てきているのではないかという指摘も、その委員会でも出てきました。実際、県民活動をする現場の状況の変化がどうなるのか、というのは山口がこれからどういう姿になっていくのだろうかという予測も併せて、それに対応したような県民活動の方向性を19年度の検討材料に盛り込むとしたら、活動団体の実態調査というのも当然必要なんですが、プラスして地域の変化のあり方に関するような、将来予測といってもいいものをどこかに盛り込めていけて、それを基に県民活動を進めるための指針が描けるのではなかろうかと思います。

国土計画づくりは、全国一本とそれからブロック単位でやるということ、国土交通省の計画局の方はかなり作業が進んでいるようです。その中でも一番大きいのは、人口減少時代、少子高齢化に対応した国土計画のあり方ということなのですが、山口県でも同じようなテーマが使えると思います。そういう意味では、県民活動のサイドから見た山口県のあり方というのを逆に提案していくというのも一つの方法ではなかろうかと思います。

当然、県の長期計画は、関係部署がおやりになっているのですが、地域で活動をやられる側からの提言のようなものがまとめていけるそのための調査、数値等も含めて整理ができていければいいのかなという気がしています。5年先、10年先というのは、たぶん山口県の中山間地域というのは、かなり寂しい状況がくるというのは、おぼろげながら思うわけです。そういうことに対して、環境整備も含めて、山や川をどう守っていくのかということも関わってくるので、他の部署との動き、その中で、県民活動の果たせる役割はどのようなところなのかという議論が必要になってくると思います。かなり、深刻な状況が来つつあるという気がしています。

[会長]

はい、ありがとうございました。

今の御意見ですが、人口減少と少子高齢ということで、ある程度ブロックごとに人口みたいなものを事細かに把握していく中で、見えてきたものをどう提言していくかという形になるのでしょうか。

[委員]

単に県民活動団体の調査だけではなくて、その地盤というかフィールドの変化の把握を丁寧にする必要があるのではなかろうかということです。

[委員]

今の安藤委員の御指摘は、非常に重要な御指摘だろうと思います。それでとりあえず何を考えればいいのかということなんですが、まず1つは8、9ページのあたりで、支援センターが設立されている市町村でも、県もセンターを作って随分経って、登録団体数も増えているにもかかわらず、直面している問題点を見ると、活動に必要な機材の不足や場所の確保が難しいとか、数はそれほど多くないですが、支援制度での情報が行きにくいとか、増えているというのをどう読むかということですね。次の県に期待する支援策のところでも、それに対応して、例えば、場所や物品、機材等の提供や行政情報の提供というのが増えているんですね。

ということで、支援がいろいろ進んでいるはずなんですが、こういう回答が増えているということですね。これは、調査の母集団の問題もあるかと思うんですが、1つの仮説としては、6ページのところで、活動年数の1年未満とか1～3年未満とか増えているということなので、ひょっとするとこうした新しい団体のところには、十分に支援の情報が届いていないという可能性もありますよね。このあたりはやはり、単純集計だけではなくて、例えば団体の設立年次とこの問題点や支援策とのクロス集計あるいは、分野と問題点や支援策とのクロス集計、それから先ほど安藤委員のいっておられた拠点の地域とクロスをしてみると。それで、この拠点の地域というのは、市町村合併で、みんな市になってし

まうので、ちょっと調査の中に、例えば同じ山口市といっても、旧山口市なのか、それとも旧の徳地町なのか、それによって随分、活動団体の特徴だとか、持っている資源も変わってくると思います。そのあたりがわかるような項目をちゃんと付けて、クロス集計を取って、例えば中山間地域の活動団体では、特にこういったところで、支援が必要であるといったことが、わかるような分析をする必要があるのではないかとというのが1つです。

それからもう1つは安藤委員の関連で、県民活動には、コミュニティ活動も入っていますので、いわゆる合併の中で、新市のコミュニティ行政がどうなっているのか。例えば、かなり効率化をしなければいけない、その中で当面は、従来の旧市、旧町のコミュニティ行政を持続して、だけれども効率化していかなければならないということで、補助金だとかの整理は進んでいくと、そこで、どういった問題が起こっているのかということ、これは当然、各市で取り組むことなのですが、全体的に県の中でどうなっているのか、そういったことも少し、県として調査をしていく必要があるんじゃないかという気がしています。合併が落ち着いて、2、3年経ったあたりで、市の方でも考えていらっしゃると思うんですが、どうやったらコミュニティ活動の足腰を強くするかといったことも調査・分析する必要があるんじゃないかと考えました。

[委員]

実際に地域で活動してしまっていて、そういう見方でこのデータを見ますと、例えば、事務所というのは個人宅だと、資金的にも、事業で稼いだ金を運転資金に回すというのにもかかわらずかしかないわけですね。実際の地域を見ますと、公の担い手ということで、まちづくりや新市計画を今もうやっているのですが、まだまだそんな団体というのは少ないですね。そういう団体に新しい公共の担い手にするというようになってくると、行政の方も相当そのことに対して、突っ込んだことをやっていかないという感じがしています。安易に市民団体を育成すれば、公共の担い手になるなんて、そう簡単じゃないなど。今地域のコミュニティというのは、ある程度やってきているところもあるわけですけど、そういうものは本当に担い手として育成していくということですね。各市でも行われてますけど、行政の方からも市民のニーズという、市民サイドの調査ということもあるんですけど、やはり行政側としたら、どういうふう担い手としていくんだという見方が重要ではないかと思えます。

活動拠点について見てみますと、公共の施設を使うというのが減っているわけで、公共施設を例えば市役所に協力するのであれば、市役所を開放するといった、行政も持っている財産を、市民活動にどんどん公開していくという風なメジャーがあってもいいんじゃないかと思えます。

いろんなボランティア活動、NPO活動、コミュニティ活動となっていますから、いろんなものの底辺を増やしていくということが大事でしょうが、公共の担い手という視点でいくと、別のメジャーで持って行く必要があるんじゃないかと思っています。

[委員]

まず1点目が、地域に支援センターを希望しているところが非常に多いのですが、団体は作りたい、活動したいという熱い思いがあっても、市の方が今一歩動きが止まっているところも多々あります。そこを県の方から、ある程度サポートしてもらえないだろうか、あるいは協働という取組の中で、一緒にセンターができると、どういうふうになっていくかという変化も含めて、一緒に動くということができないだろうかと感じています。民設民営で作ろうという動きもありますが、非常に大変だということがわかるのでできれば、協働でやっていく姿勢、そこに県が入ることによって大きな成果を生むのではないかと考えています。合併した後の旧庁舎の活用ということもできないわけではないので、是非取り組んで頂くとうれしいなと思えます。

2点目は、コミュニティ、自治活動の方を今後は力を入れていかなければいけないので

はないかと、私は、強く思っています。できればコミュニティ活動とNPO活動の融合と
いうか協働というか、それに取り組むべきではないかと感じています。特に、市の都市部
の方、例えば周南市でいうと、徳山エリアや新南陽エリアでは自分たちの自主財源でやっ
ていくことが当たり前だということが、中山間の地域によっては、今まですごくサポート
を受けていたために、サービスの低下だとか、活動しにくくなっているという状況も見受
けられます。両者が一緒に活動する上で、そういった問題を少しずつ解決しながらやって
いくとしたら、ニーズの把握やどうすれば活動がうまくいくだろうかというところを都市
部の今まで自主財源でやっていくことが当たり前だとおもっていた人たちと一緒にやって
いくことも重要だと思います。

それから3点目は資料13ページの4番の県民活動団体における行政との協働に対する
意向の調査ですが、調査を調査だけで終わらせてほしくないと思っています。具体的に言
いますと、協働の有無や方法あるいはしない理由等あげた後に、今後、行政側の課題を団
体側からこうすれば解決できるんだよというようなご提案があった場合、その提案をどう
にかして汲み取ってもらえるような仕組みを作ってもらいたい。一歩進んで調査をどうし
たら活かせるかということで、そういうふうなことも踏まえてやりますよというふうに、
最初から調査票に書いて頂きたい。でなければ調査で終わってしまって、私たちは、調査
のための回答をしているとしか思えないとなってしまっはいけないので、是非、それが
今後の協働に活かせるだということを明記して頂けたらと思います。いままでも、いろ
んな調査機関から調査というアンケートがくるんですが、その後それを活かした形で、一
緒にやりましょうとかこういう取組に踏み出しますというようなものが最初に書いてない
と、わからないということが多々ありました。是非、そこは明記した上で、今後の協働事
業に活かすといったようなことを一文書いた上で調査を行って頂きたいと思ひます。

[委員]

10ページの他団体との交流ということなんですが、断定的に増加しており、交流が進
んでいることがうかがえると書いてあるんですけども、まだまだ実際にやってみて、こ
の数字自体もそうなんですが、交流が進んでいるということではないと、まだまだ交流を
進めなくてはいけないという視点ではないかと思ひます。

[委員]

3ページですが、今後の活動の動向というところで、16年度調査では、57%がボラ
ンティア活動をしたいと思うと答えているにもかかわらず、参加できない理由は、健康や
体力に問題があるとか活動する時間がないというのが、割合が高いですよね。これを見た
とき、実際に私もいろいろな団体と交流しますが、活動する方は、仕事をしながら、な
い時間を上手にクリアしています。これが県民活動の力だと思います。だからやってみたら、
いかに1週間とか1ヶ月の時間を調整しながらやるかというおもしろさがわかると思
うのが1点です。また、本当に人に役立っていると感じたら、精神的に充実してきて、そ
うすると健康にもなると思うんです。あるいは、自分が調子が悪い場合は、自分で健康管
理し、きちんと体調整えながら活動するというふうに責任持ってやっています。そういう
意味では、ボランティアなど県民活動をすることによって、時間の調整ができ、体力も配
慮しながらできるというすごくいい効果があると思ひます。そのことがやっていらっしや
らない方は、おわかりにならないのじゃないかと思ひます。ですから、そういう方々をど
のように引っ張り出すかということが、大事ななと思ひます。次に、6ページを見たとき
に、活動分野の子どもの健全育成とかまちづくりに関心があります。特に、子どもと向き
合うと大人は大人としての地域の教育力を発揮しようと思うんです。過疎地域は子どもも
少なく、学校が終わっても遊ぶ子どももいないぐらいで、そういった子どもたちと関わり
ながら自分たちも元気をもらおうといったようなグループの方が口コミしながら、地道に活
動を広げています。広告、チラシを作ってもなかなか人は集まりませんが、活動している

方がこういう理由からこうしたことをすると楽しいよといったようなきっかけを広げていくと、体力に自信がないとか時間がないといったような人も、やってみようとなってどんどん広がっていくと思います。

[委員]

私がボランティアを立ち上げたのが、平成3年で、その頃は呼びかけても誰も耳を貸してくれないという時でした。3日でやめてしまうということでしたけど、継続し、今まで続けていたことで、最近答えが出たような気がします。

活動の開始は、何でもない人の出会いによってでした。観光客との出会いが活動の開始で、それで、活動の開始が勉強の開始でした。

私が旗を振ることによって、同年配の人が集まったのですが、おしゃべりの中で、みんな特技を持っているということで、その人達に何かを見いだして、活動できるようなチャンスを作ろうと始めました。

それから、平成8年に文部省から補助金をもらって事業を行いました。その時だけではいけない、継続しなければいけないということで、今日に至っています。最近では、行政と学校と団体とがチームワークをとれるようになりましたが、会員はだんだん高齢化してきており、足踏みしたい頃というのも事実です。しかし、岩国寿司を教えてください、県の農林部や観光交流課からも要請があって、声が掛かると尻込みしてはいけないうちに対応しました。また、今年は、企業からも岩国寿司を教えてくださいと要請がありまして、東京、大阪等へも出向きました。年寄りでもやれたということがとても、良かったです。あまり、無理をしないでも、それなりにやるボランティアがあってもいいんじゃないかしらということを経験させてもらいました。地域の実態に即したものを、岩国の観光地から観光地のように、子どもが歴史の勉強をしてミニガイドをするようになったきっかけもできました。それから基地の町ですから、国際交流のチャンスを作るとか、自分たちでできるチャンスを作っていくというのもいいんじゃないかと思っています。

[会長]

ありがとうございました。今までやってこられたことが、本当に証言者としての言葉の重みがありました。

[委員]

防府市の市民活動支援センターを運営しておりますが、今、登録者数と団体は増えてきております。最後の所に、協働のアンケートの項目がありましたが、登録団体が協働についてどのように思っているかというところ、そこまで思っている団体は少ないんじゃないかとそして、行政との協働という時に、手を挙げられるだけの能力を持っているかというとなかなかないなと思ひ、これからの登録団体の能力アップの必要性を感じています。

市民活動支援センターとしては、行政との協働の意識を持っていますが、市町は協働についてどのように考えているか、よく見えないのですが、行政(市)と登録団体が一緒になって協働について考えるという場がこれから持てたらなと、そのようなことも進言して頂けたらと思っています。

[委員]

山口市に来て2年目になりますが、県民活動の土台というのが、以前住んでいた楠町、現在合併して宇部市ですが、比較すると、山口市内は活発だなと思います。

学生がいるというのも、一つの要因と思いますが、先ほど、きらめき財団の事業の説明で、県民活動ネクストジェネレーション育成事業というので、次世代を担う子どもたちからということだったので、子どもだけではなくて、取り込むべき人や地域は広いので、是非、限定せずにもっと拡大して行って頂きたいなと思います。

[会長]

2年間の任期で、今日が最後になります。

いろいろなところで御意見を伺ったりすることができました。本当にありがとうございました。皆様とお知り合いになれたこと、またいろんな御意見を伺いながら勉強させていただいたことがとても良かったと思います。皆様に感謝致します。どうもありがとうございました。

[事務局]

本当に、2年間ありがとうございました。

いつも密度の濃い議論をしていただき、本当にありがたく思っております。裾野の拡がりをもつ環境づくりというところから、今日も随分議論していただきましたが、協働に向けてもっと取り組んで行かなくてはいけないと思っております。

それと、中山間の話題が出てきましたけど、今、県の方で私どもの部署ではないのですが、ビジョン作りを進めてまして、4月から新しいそれ専管の組織も発足致します。

その部署がどんなデータを持っているのかを、先ほど委員の皆さんからご提案もありましたので、少し聞いてみたいと思います。

それから、コミュニティ活動でございますけど、実はこの基本計画を作る時に、県民活動の定義をどうするかということで随分議論していただきまして、コミュニティ活動は是非入れるべきだということで、入った経緯がございます。

ちょっとおろそかになっている面もございますので、これから落とさないようにやっていきたいと思っております。

これからも、それぞれのお立場から御支援をよろしくお願い致します。どうも、ありがとうございました。